第１回
能代市都市計画マスタープラン及び能代市立地適正化計画策定委員会
議事要旨

開 催 の 日 時　　令和２年１１月２４日（火）
　　午後１時３０分から午後４時まで

開 催 の 場 所　　能代市役所　本庁舎３階　会議室９・１０

委 員 の 定 数　　１８人

出　席　委　員　　１５人

次　　第　　１　開　会
　　２　委嘱状の交付
　　３　市長挨拶
　　４　委員及び事務局紹介
　　５　委員長・副委員長の選任
　　６　議　事
　　(1)　都市計画マスタープランの見直し及び立地適正化計画策定の背景
　　(2)　都市行政の最近の話題
　　（講演：東北地方整備局建政部都市・住宅整備課長）
　　(3)　能代市が抱える問題・課題
　　７　閉　会

議　事　要　旨

1　都市計画マスタープランの見直し及び立地適正化計画策定の背景

Ａ委員	現行の都市計画マスタープラン策定から10年が経過した時点での今回の見直しということだが、現行のマスタープランは20年後を見据えた中での10年での見直しとなる。今回の計画についても、10年程度経過すると見直しとなるように思うが、20年後を見据えたではなく、20年後までを見据えたまちづくりなのではと思っている。マスタープランとして、どのような年次計画となっているのかお聞きしたい。
事務局	現計画は平成22年３月に策定し、基本目標を20年としている。 マスタープランの策定は、上位計画である能代市総合計画や国土利用計画を参考としているが、近年、両計画の見直しが行われており、マスタープランの見直しの背景にもなっている。また、計画策定から10年が経過した中で、社会情勢の変化が起こっており、今回、見直しを行うこととした。 目標は20年ではあるものの、社会情勢等の変化が確認されれば、必要に応じ、見直しは行わなければならないと考えている。
Ａ委員	20年後がこうあるべきだということを目指していくのか、20年後までを目指して策定していくのかによって大きく変わると思うが、その期間の捉え方はどのように考えているのか。
事務局	20年後までを見据えながら、その中での変化は随時踏まえていきながら運用するように考えている。
委員長	都市計画は100年の計と習った。都市計画を動かして成果が表れるまでにはそれなりの時間がかかることになる。20年後の姿・ビジョンを設定し、具体的な取組・プランについては10年間で考えるということだと思う。10年が経過すると制度や財政状況は変化する。具体化の施策や事業等については、なかなか10年以降を見据えることは難しい。そのように理解すれば良いかと思う。 現行のマスタープランの拠点は、どこに設定しているのか。
事務局	ブロックごとに計画している。拠点の配置としては能代中心部を都市拠点、二ツ井等を地域拠点として設定している。
委員長	能代東I.C.周辺の開発をどのように取り扱うのか、今後の委員会での論点になると思っている。

Ｂ委員

立地適正化計画の目的に「コンパクトなまちづくりを進める」とあるが、能代市の方向として、能代東Ｉ.Ｃ.周辺に大型店の出店が決定している状況であり、コンパクトシティではないと思っている。コンパクトなまちづくりという表現は削除すべきだと思う。

大型店の出店をきっかけに、周辺農地が商業ベースで市街化し、そこに街ができるのではと思っている。そのため、中心市街地は衰退していってしまうと思う。最も心配しているのは、商店への影響である。二極でどのようにバランスよくまちづくりができるということを、どのように考えているのかと思う。

佐久市では、大型のモールができたことで、スーパーが３店廃業した。そのモールに最も近い地域では大きな影響を受けたが、今はそのモールと組んでまちづくりをしている状況である。佐久市の場合は行政のテコ入れが非常に多かった。メンテナンスがあったということである。

コンパクトシティに関する考えをお聞きしたい。

委員長

とても重要な論点ではあるが、計画論の内容になってきている。今後必ず議論すべき論点であるとは理解しているが、現時点で市がどのように考えているのかということについては、いったん保留していただければと思う。

今の段階では、市が考えているコンパクトなまちづくりに関し、総論で良いので簡単に説明していただきたい。

事務局

能代市の基本的な課題は人口減少である。立地適正化計画の策定により、人口減少下においても居住や商業、介護・福祉など生活サービスの機能について、ある程度の拠点を設け、そこに誘導していくということを市として取り組んでいく必要があると考えている。

将来のことを考え、コンパクトな形にしていくということが必要との認識のもと、計画策定に取り組むこととしたということでご理解いただければと思う。

委員長

公共施設の白書のデータについて、公共施設等総合管理計画での基本的な方針はどのようになっているのか。

事務局

30 年間で 35％の床面積の削減を目標としている。

２　都市行政の最近の話題

Ｂ委員

今までのコンパクトシティの形が変わっているということが理解できた。拠点・拠点があってということも理解できた。

この意識の中で計画を作ることが大事で、一般の市民の方にも理解をいただきながら進めていくことが重要だと思った。

委員長

立地適正化計画に関する国の基本的な考え方や政策の動向について紹介いただくとともに、先行して策定しているところでは、ただプランを作るだけでなく、独自の工夫をしながら効果を上げていくという紹介もあった。

おそらく、国の考え方の枠組みがある中で、能代市は能代市の特殊事情のようなものがあり、単純にその枠組みをそのまま適用するということではなく、市としてのきちんとした考え方が重要なのだと思っている。この部分については、今後皆さまとともに議論できればと思う。

３　能代市が抱える問題・課題

Ａ委員

賑わい形成に関して取り組んだということを説明いただいたが、次回でよいので、その具体的な内容についてお聞かせいただければ、今後の議論の参考になるのではと思う。

もう１点。コンパクトシティという言葉が独り歩きしているような部分がある。問題提起をさせていただくと、将来の人口や高齢化率をみると、米代川の北側や市街地東部に広がっているという状況で、こういったところではあまり人口は減らず、高齢化率もあまり高くならないということは、若い方がそこに住んでいるということだと思っている。それに比べて中心市街地は、人口減少が大きく、高齢化率も高くなるという見通しになっている。そこで問題となるのが、人口密集地としてそこに住む人が増えることが幸せなことなのか、そこに住むことによって賑わいも共に創出できるのかということが問題だと思っている。郊外に大型店舗が進出するという中で、そこに若い人が住んでいるということは、そこで生活が成り立っているという状況もあると思う。今後、モビリティや Web の変化等によって街に行かなくても生活できるようになるということもあり得る。そういったことも含め、能代市をどうしていきたいかということを、コンパクトシティという言葉に囚われず、今後の技術的革新とビジョンを含めて議論していければ、素晴らしい会になるのではと思っている。

Ｃ委員

人口減少、少子高齢化の進行により経済が衰退する。その衰退は町の活力を低下させる。活力の無い町には人は来ないということで負

のスパイラルとなる。これをどうやって止めるのかということでは、特効薬はなく、地道に企業誘致等を進めていくしかないと思っている。

喫緊の課題は、空き家や空き地等が目立ってきていることである。これらの不動産の再利用や転売等の動きがみられないという感覚を持っている。また、社会基盤として道路・公園・河川等の整備は進んでいるというように思っているが、都市計画道路の見直しにより、途中で整備を終えてしまったような箇所が散見され、今後のまちづくりの支障になるのではというように思っている。公共交通に関して、実態としては、２時間もかけて組合病院に通院に行くというご老人もいると聞く。公共交通の空白地解消も重要だが、利便性を確保することも重要であると感じている。

Ｄ委員

二ツ井において空き家解体の行政代執行を行ったという報道がなされていた。本来、空き家は所有者が解体するということが原則であるが、それができないということでの行政代執行である。その費用については、所有者に請求するということである。

空き家は様々で、使えるものとそうでないものがある。また、空き家になる経緯も様々である。空き家が増えるということは、人口が減るということであり、定住を促進しなければならないということである。特に思うことは、子どもが育つ過程で、能代市の魅力をしっかりと見て・聞かせて・体験させて、能代市に愛着を持ってもらうような教育をしていかなければいけないと思う。ゆくゆくは能代市に帰ってくるんだと思ってもらうことが重要。

能代は海・山・川と素晴らしい資源があり、移住してきた方々も言っている。１つ１つそういったことをやっていくことが大切だと思っている。

Ｅ委員

人口減少対策として、これまでに出た意見に加え、企業誘致や学校の誘致のほか、結婚や子育ての支援など、こういったことを含めて取り組んでいければと思っている。

交通体系に関し、能代東 I.C.に大型店が立地することになるが、先を見据えて皆さんで考えていければと思う。

災害に関し、各自治会で地域防災士が増えている。その方々の協力を受けながら進められればと思う。また雨水に関し、能代市は交差点で浸水する箇所がみられ、それを減らすため、可能な限り宅内で雨水を処理できるような対策を考えていければと思っている。

Ｆ委員

昭和 46 年に大瀬団地ができた。それまでは原野と畑だった。当初は地縁の無い方が集まって住んでいた。それから 50 年が経過し、高

齢者も増え、人付き合いが少なくなってきたと感じている。10 年前までは頻繁にみられた。
子どもについて、大瀬団地から第四小学校に向かう間の道路で、車が１台しか通れず、人とのすれ違いも困難な場所がある。危険な箇所として、学校を通して交通安全の担当課に伝えていた。
学校付近に時間規制を行っている箇所があるが、侵入する車が多い。また、下校時間と規制時間帯にずれが生じている。その部分についても取り組んでいきたいと思っている。

Ｇ委員

バスがカバーしている範囲は大きいが、通勤・通学時の公共交通利用率が低いということで、非効率な運行をしているのではないかということである。秋北バスの運行エリアは８市町村あるが、全ての範囲で赤字路線が拡大し、行政負担が大きくなっている状況にある。ポイントはコンパクト・プラス・ネットワークだと思う。居住を誘導し、その中で、公共交通のあるところに誘導していくという考えが重要だと思う。
コンパクト・プラス・ネットワークの先進地として、富山市に視察に行っている。今後の会議において、紹介もさせていただければと思う。

Ｈ委員

農業で感じていることについて。昔は世帯ごとに子どもがいたが、今は集落に１人か２人、子どもの声は聞こえず、後継ぎがいないという状況である。なぜ、能代東 I.C.周辺に大型店が出店し、農地が減っていくのか、あるいは、空き家があるのにも関わらず宅地化により農地が減っていくということを寂しく思っている。
昔は畠町や柳町は活性化されていて、すごく元気だった。しかし、今は大きく変わってしまい、人が歩かなくなっている。この状況を子どもたちがみたときに、なかなか戻ってこないと思う。20 年前と様変わりしている。能代市民は畠町に協力的ではないとまでは言わないが、地元を見直す時期がずれているのではと思ってしまう。コンパクトなまちも良いが、思いやりの気持ちがなかなかないと思っている。

Ｉ委員

都市は人がいなければ成り立たない。去年、能代市では 230 人の子どもが生まれた。子育ての大変さは、実際にやってみないとわからない。子どもたちがモチベーションを上げて、能代市に戻ってくるというようなソフト対策が大事だと思っている。

Ｂ委員

自治会連合協議会は、安全・安心のまちづくりを心掛けている。防災では自主防災組織の強化を行っている。活性化としては、中心市街

地でのマルシェや朝市を実施している。美化活動もしている。
　上町自治会は高齢化率が 50%以上となっている。その中で、一人ひとりがやれることをやろうという考えで自治会活動を行っている。

Ｊ委員

　デマンドタクシーについて、市に要望したところ素早く対応いただき、みんなに喜んでもらっている。
　連休明けになるとゴミステーションがごみの山となっている。遠方から捨てにきているようである。こういったことも行政の方で考えてもらいたいと思っている。

Ｋ委員

　能代東 I.C.周辺に大型店舗の建設が進んでいるが、近隣市町の利用も見込んだ施設となる。雇用については 1,000 人規模を想定し、もっと大きな目で考えることも必要だと思う。
　先日、イオン能代店と近隣商店街で一緒にセールを行ったが、なぜ今までやってこなかったのかと思っている。イオン能代店を残すために、商店街側から巻き込んでいけば良いと感じている。

Ｌ委員

　東京圏の約５割が地方移住に関心を持っており、若い方の３割が地方移住を真剣に考えているという報道があった。時代としては、田舎に暮らしたいという方が増えていることは事実だと思うので、空き家・空き地対策とからめ、人口を増やすために、そういった方々に働きかけていくということに取り組んで欲しいと思っている。
　二ツ井町では、河川の掘削を進めていただいている。洪水の浸水想定についても変化があるのかなと思うが、継続して勉強していきたいと思う。

Ｍ委員

　国道 101 号の無電柱化に関し、景観や防災の観点で、天空の不夜城では高さ日本一の灯篭が練り歩くことができ、大変効果があったと思う。そういった観点から、国道７号についても景観や防災の観点から無電柱化を推進すべきではないかと思っている。

Ｎ委員

　能代市は能代山本地域の中心都市であり、今回の立地適正化計画によって、都市の持続性を高めていくということは非常に重要である。広域的な観点からも、能代市はこれからも中心都市として持続していって欲しいと、県の立場からもそう考えているところである。
　また、個人的な立場から、郊外のショッピングモールやアウトレットモールに関しては、昼の顔が中心の要素であると思っている。一方で中心市街地には、業務や医療など、そういった機能が従前としてあるほか、商業機能をどのようにもたせていくのかということが中心

	市街地活性化の課題だと思っている。資料にあるとおり、郊外店舗と中心市街地の商業のあり方、その棲み分けが非常に重要となると思っている。
アドバイザー	コンパクトシティは手段であって目的ではないことを理解したうえで計画策定に取り組むことが重要であると思っている。また、都市計画区域の外側も含め、まちがどのように生き抜いていくのか、市民がどのように生き抜いていくのかということをミクロに考えていかないと、まちの将来をしっかりと考えられないと思っている。街がどのように生き抜いていくのかということは、市民がどのように生き抜いていくのかということであると思っている。それが、どこに住むべきなのか、どのような機能があれば快適に過ごせるかということになる。国としても、様々な事例を通して一緒に考えていきたいと思っている。
委員長	いろいろな意見をいただき、論点も少し出た。あまり散漫にならないよう、一定の枠組みをもって議論をしていきたいと思っている。 今回は初回だったので皆さんからのご意見をいただくこととしたが、今後は事務局と相談しながら、時間の設定の仕方についても考えたいと思う。 ここで私の進行は終わりにする。
事務局	次回の委員会は２月の中旬～下旬を予定している。内容としては、アンケート調査結果や都市構造分析結果、課題整理結果等を予定している。 なお、アンケートに関しては能代市民及び市内の高校２年生を対象に９月下旬から 10 月上旬にかけて実施している。結果については次回の策定委員会にて提示させていただく。 次回委員会の日程に関しては、調整させていただいたうえで連絡させていただく。

これは、令和２年１１月２４日に開催された、第１回能代市都市計画マスタープラン及び能代市立地適正化計画策定委員会の議事要旨である。